

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名		一般国道338号 白糠バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	青森県
起終点		自：青森県下北郡東通村白糠 至：青森県上北郡六ヶ所村泊		延長		6.5 km	
<p>事業概要</p> <p>一般国道338号は、北海道函館市を起点とし、青森県下北郡大間町を經由し同県上北郡おいらせ町に至る延長約231kmの幹線道路である。白糠バイパスは、人家連坦部で幅員狭小、急カーブ、急勾配の連続した隘路区間を解消し、くわえて堆雪帯の設置により冬期間においても安全で円滑な交通の確保を目的とした、延長6.5kmの2車線道路である。</p>							
S62年度事業化		H 年度都市計画決定 (H 年度変更)		S62年度用地着手		H7年度工事着手	
全体事業費		90億円		事業進捗率		27%	
計画交通量		2,700台/日		供用済延長		0.7 km	
費用対効果分析結果		B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 1.6		総費用 (残事業)/(事業全体) 57/90億円 (事業費：50/83億円 維持管理費：6/7億円)		総便益 (残事業)/(事業全体) 92/104億円 (走行時間短縮便益：83/94億円 走行費用減少便益：8/9億円 交通事故減少便益：1/1億円)	
事業の効果等		・物流効率化の支援（漁港からの水産物輸送の利便性向上） ・個性ある地域の形成（主要な観光地である下北半島国定公園 恐山へのアクセスの向上） ・災害への備え（緊急輸送道路ネットワーク計画において第1次緊急輸送道路に位置づけあり）					
関係する地方公共団体等の意見		他10項目に該当					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等		新幹線八戸駅が平成14年12月に開業したほか、地域高規格道路である下北縦貫自動車道路のうち野辺地IC～野辺地北IC間の約13.2kmが平成17年12月までに供用されており、下北半島国定公園観光の利便性向上ためにも、道路整備の必要性は高まっている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等		【執行済み額】事業費：2.4億円（進捗率27%）うち用地費：3億円（進捗率74%）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等		今年度事業の認定を受け、難航していた共有地取得が可能となったことから、平成20年代前半の部分供用を目標に事業推進を図る。					
施設の構造や工法の変更等		再生採石、再生合材を積極的に利用し、コスト縮減を図っている。					
対応方針		事業継続					
対応方針決定の理由		以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図							

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。